

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的な知識や技能を習得し、課題解決に生かす力の向上
- ②書く・話す活動を通じた思考力・判断力・表現力の向上
- ③主体的に学びに向かい、互いを高め合う力の向上

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
2年担任：幸路真理

委員
校長：岡田恭一
教頭：前田和博
教務主任：瀬川知絵

校長

岡田恭一



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算については、ある程度の定着が見られる。 ●基礎・基本の定着に個人差があり、配慮の必要な児童がいる。 ●課題解決のために必要な情報を読み取って活用する力が弱い。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。 ・教科書の内容や問題文の意図、表やグラフが示す意味などの読み取りができる。	・定期的に小テストを行ったり、計算練習などを継続的行ったりすることで、基礎・基本の定着を図る。 ・分かる授業を目指して教材・教具の提示の仕方を工夫し、個々の児童に応じた補充的な学習指導を行う。 ・重要な部分にアンダーラインを引いたり、指示語などのキーワードを囲んだりして注目させ、何が書かれているかを的確に捉えることができるようにする。	生活経験の少ない児童が理解しやすいように、写真や動画・具体物等を見せる工夫を継続して行っていく。 個々の児童に応じた補充的な学習を充実させるために、タブレットを使ったドリル学習に取り組ませる。	・Vスキルの時間を使って小テストを定期的に行い、基礎・基本の定着を図ったが、定着度に個人差があった。 ・タブレットを活用してワークシートを送信したり、ドリル学習を取り組ませたりすることで、個々の児童に応じた補充的な学習指導を行うことができた。学習の進捗状況を把握することもできた。 ・重要な部分にアンダーラインを引いたり、キーワードを囲んだりする活動を繰り返すことにより、書かれている内容を捉えることができる児童が増えた。	既習事項の定着を図るために、タブレットを使ったドリル学習を有効に活用する。 各学年の発達段階に応じて、タブレットの効果的な取り入れ方を考える。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が体験したことについては、進んで書いたり話したりすることができ、伝える力を身に付けてきている。 ●筋道立てて自分の考えを書いたり説明したりする力が不足している。	・根拠や理由を明らかにしながら、自分の思いや考えを表現することができる。 ・他者の意見を取り入れながら、自分の思いや考えを深めることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を設定し、自分の考えを伝え合う場面を増やす。 ・「なぜ」「どうして」そう考えたのかを児童が説明できるように、発表の仕方や書き出しのモデルを提示する。 ・ホワイトボードやICTを活用することで、自分の考えを整理したり、友達のと共通点や相違点に気付いて自分の考えを深めたりできるようにする。	発表の仕方や書き出しのモデルを提示することで、どう発表してよいか分からない児童が発表しやすくなった。 ロイロノート等で友達の意見を映し出すと、自分の考えと比べやすくなった。引き続き取り組んでいくようにする。	・コロナウイルス感染予防のためにグループ学習は控えたが、各教科で学習の成果を発表する機会を設け、自分の考えを設定する場面を多く設定することができた。 ・タブレットを活用することで、児童が意欲的に自分の考えを表現し、学級全体で共有することができた。	思考モデルやヒントカードを用意し、児童が自分で選択して活用することで、自分の考えを深め説明できるようにする。 タブレットで一定の成果を上げているが、話し合いの機会も取り入れ、自分の考えを口頭で伝え合う活動も確保するようにしたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組む、方法や手順が分かる学習には意欲的に取り組める。 ●自分から課題を見つけて学習しようとする意欲が乏しい。 ●家庭での読書習慣が身に付いておらず、読書時間が少ない。	・学習に対して見通しをもち、主体的に取り組むことができる。 ・自ら課題を見つけて学習を進めたり、話し合い活動等を通して解決する方法を考えたりすることで、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・本を読む楽しさを感じることで、進んで読書をする習慣を身に付けることができる。	・何を学ぶのが児童に伝わるように、授業のめあてを提示し、学んだことを振り返る場面を設ける。 ・異学年交流の場と学習発表の場を結びつけ、相手意識をもって活動に取り組めるようにする。 ・児童が自ら選択して学習に取り組めるように、タブレットを使って行うことができる自主学習教材を準備しておく。 ・学校図書を充実させ、本の紹介や読み聞かせをすることで、読書意欲を高める。	授業の振り返りを毎時間することは難しいが、単元ごとに振り返る機会を設ける。 タブレットを家庭に持ち帰り、児童が自分に合った課題を選んで主体的に学習に取り組むことができるように、教材を準備できるよう、今後検討していく。	・授業のめあてを提示することで、何を学習するのが明確になり、見通しをもって学習に取り組むことができた。 ・児童が自分に合った課題を選んで主体的に学習に取り組むことができるように、教材を準備することができた。 ・委員会活動や国語科の学習を通して、本の紹介や読み聞かせを行った。	年間指導計画に異学年交流活動を具体的に記述し、計画的また効果的に実施できるようにする。状況によっては、オンラインでの交流を図る。 児童が主体的に学びたいと思えるような教材の提示の仕方や、児童の興味・疑問から次につなげていけるよう、授業を計画する。

令和3年度 学力向上ロードマップ

